

85会報

御
幸
せ
い

発行所 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11
TEL 03-6907-2537
FAX 03-6907-2915
福社財団ビル6F

発行人 山東 昭子 編集人 松本 未男
(題字 山東昭子会長)

第四十六回 聴覚障害児を育てた お母さんをたたえる会

お祝いのことば

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長

山東 昭子

皆様。本年は

新年早々の能登
半島地震で亡く
なられた方々に

お悔やみを申し
上げ、今も大変

なご苦労をして
おられる方々に

心からお見舞い
申し上げますとともに、一日も早い復興を願つてお

ります。本日は昨年に続き秋篠宮佳子内親王殿下に

御臨席を賜り、江戸川区立タワーホール船堀にて「第



佳子内親王殿下のおことば



はじめに、令和六

年能登半島地震によ
り亡くなられた方々

に深く哀悼の意を表

しますとともに、大

切な方を亡くされた

方々、被災された

地域からご出席の方

もいらっしゃいます。

本日は、被災した

人々に心からお見舞

いを申し上げます。

本日は、被災した

人々に心からお見舞

<p

祝いを申し上げます。皆様の今後のお幸せとご活躍をお祈りいたします。

終わりに、きこえないこと、きこえにくいことに対する社会全体の理解がさらに深まり、誰もが安心して暮らせる社会になることを、誰もがより幅広い選択肢を持つ社会になることを願うとともに、この催しが皆たりまえになることを願うとともに、この催しが皆様にとって大切な思い出になることを願い、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

○ ○ お母さんの体験発表 ○ ○

愛知県 望月 歩



本日は、このようないいえある場にお招きいただきまして、大変嬉しく思います。名譽なことです。

大変僭越ではございますが、受賞者を代表いたしまして、感謝とお礼を申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

私は、大学二年生の健常の娘と、高校三年生の聴覚障害の息子がいます。息子は、人並みより成長がゆっくりという個性も持っています。

息子が全く聽こえていないことが発覚したのが、二歳半。当時通っていた療育センターの言語聴覚士の方が気づいてくれ、検査して発覚しましたが、その結果は夢にも思っていませんでした。家のなかつるん、通っていたリトミック教室などでも、周りを見ながら頑張って生活していたのだ、音というものの存在や、物には名前があるということも知らなかつ

たという事実を突きつけられ、愕然としたのを覚えています。

でも、下ばかり向いてられない、人工内耳や補聴器の活用が少しでもできるならとすぐに動き、三歳で左耳に人工内耳手術をし、右耳は補聴器の装用を始めました。

それと平行して、聾学校に入学しました。

右も左もわからないまま、ここから再スタートだ！と親は意気込んでいたものの、当の息子は全くやる気なしで、手話もわからない、発話もできない、理解するのも遅い。当時の息子の主な表現方法は、泣き叫ぶ、でした。

学校に着いても、どうして毎日ここに来なきゃいけないんだ！とばかりに暴れ出し、車から降りず。でも、その度に担任の先生が車まで迎えに来てくれ、息子を促してくれました。無理矢理ではなく、一緒に遊びながら、やり取りしながら、教室まで息子を誘導してくれました。親である私もその場面に限らず、先生と息子のやり取りを側でみていて、息子がわかりやすい生活が大事だと心がけるきっかけとなり、とても勉強になりました。

聾学校の宿題の一つであった、子供が言葉や文章を覚えるために書いていた絵日記は、毎日私が書くのみでした。途中心が折れたこともありました。それでも諦めないでやり続けていたら、息子は五歳の頃によく興味を持ち、自分で書きたい！と、自ら進んで書くようになりました。

気持ちが育っていくと同時に、言葉の獲得や手話でのコミュニケーションがスムーズになり、小学五年生になるときには、「皆と同じ教科書で勉強したい！」と、自ら学校に訴え、今では部活の部長や生徒会に立候補するなど、不器用ながらも何でも意欲的に挑戦する子に育ちました。

以前は、一日がとてもなく長く感じ、この子にこれまでやる意味があるのか、と、半信半疑の毎日でした。これをやれば確実に身につく、成長するという近道

や必勝法はありませんが、過去の経験を踏まえて最善を尽くすと一生懸命取り組んでくれる学校側と、二人三脚で家庭でも取り組んできることで、時間はかかりましたが、息子なりに自信をもつことができました。

今年度は、息子は陸上で聾学校全国大会出場や、木工で全国アビリンピック出場を果たし、どちらもメダル獲得に向けて毎日練習を頑張っていました。結果は、陸上は五位入賞、アビリンピックは残念ながら入賞できずでしたが、本番に向けて努力を怠らず練習を積み重ねてこられたことが、本番の結果以上に嬉しいこととなりました。

息子はまだコミュニケーションでつまずくこともあります。が、失敗しない人生はない、次に同じ失敗をしないように気をつけろといい、と教えていました。まだまだ私の根気がりますが、自分にも言いきかせるようにして、今後も頑張っていこうと思います。

○ ○ 桜内義雄賞受賞者 ○ ○



桜内義雄賞は、元衆議院議長で、

当協会の会長を長くお務めいただきました

桜内義雄先

生の会長在任二十五年を記念して、昭和六十一年から

毎年、社会貢献の著しい聴覚障害者の方を顕彰するために設けられた賞でございます。

今まで、芸術、医学、教育福祉、障害者運動等々、様々な分野で活躍してこられた方々を三十五回顕彰してまいりました。皆様これを契機にますます社会貢献の実績をあげておられます。

今年は山元 健司（やまもと けんじ）様に贈られます。

山元健司様のご紹介

石川県輪島市出身、ご自宅が約八十年続く山元清巧堂の長男として生まれ輪島塗を受け継いでこられた。二十四歳の時に日展評議員の佐藤幸一先生と出会い、指導を受けるようになる。二十九歳の時に輪島市美術展に工芸最高賞で入選、そして石川県現代美術展初入選、三十二歳の時に日展に「煌樹」で初出品、初入選以降十六回入選。三十三歳で、日本現代美術工芸展「樹の街」で初出品初入選。以降二十四回連続入選。漆の美展に「創樹」で日本漆工協会会長賞受賞。二〇一四年には新第一回日展で特選「ナチュラル」を受賞。そのほか多くの美術展でたくさんの作品を受賞して現在に至っている。

●第四十六回 聴覚障害児を育てた お母さんをたたえる会 受賞者一覧

北海道八名 高橋奈緒子 小野明美 高橋めぐみ

高田愛 鈴木愛 須貝令子

高木奈穂美 今野雅義

青森一名 中村里花子

岩手一名 小澤田薰

秋田一名 緑川タケノ
福島一名 佐藤和子

群馬三名 高畠美保 増田直身 本多幸枝
埼玉三名 富岡恵美 山田千秋 柴崎仁美

銅賞

静岡県立静岡聴覚特別支援学校 中学部

審査員奨励賞

山口県立山口南総合支援学校 中学部

「木星」

●第三十五回 全国聾学校合奏 コンクール審査結果

金賞 文部科学大臣賞

東京都立立川学園 小学部六年生

「もののけ姫メドレー」

努力賞

長野県立長野ろう学校 中学部

「絆～2023・新風～」

審査員奨励賞

福島県立聴覚支援学校 小学部

「茶色の小瓶」

銅賞

東京都立大塚ろう学校 小学部四年生

「COSMOS」

努力賞

東京都立大塚ろう学校 小学部五年生

「サウンド・オブ・ミュージック」より

努力賞

東京都立大塚ろう学校 小学部五年生

「アシタカせつ記」

長野四名	上平登美江	岸田孝子
新潟一名	深津美江子	丸山葉子
石川一名	山本久仁子	小倉和美
兵庫一名	田中尚美	上田恵美
徳島一名	愛媛一名	石井朱美
愛知一名	大分一名	今津真智子
山梨一名	鹿児島一名	田淵千春
望月歩	合計	三十六名

千葉二名 鎌田裕子 山田洋子

東京二名 高井義和 長瀬美佳子

新潟一名 小柳好子

石川一名 上平登美江

山本久仁子

東京二名 岸田孝子

高井義和 長瀬美佳子

新潟一名 丸山葉子

山本久仁子 小倉和美

山梨一名 田淵千春

鹿児島一名 今津真智子

愛媛一名 石井朱美

大分一名 上田恵美

兵庫一名 爱媛一名

徳島一名 石井朱美

愛知一名 今津真智子

山梨一名 田淵千春

山梨一名 今津真智子

鹿児島一名 田淵千春

鹿児島一名 田淵千春

全国聾学校合奏コンクール審査総評

審査委員長 尾崎 正峰



新型コロナウイルスの猛威が少し落ち、まだ油断ができる中、福島、東京、静岡、長野、京都、大阪、岡山、山口、福岡の各地から二十二ヶ

ループの演奏の映像が送られてきました。そのいざ

れもが、練習を積み重ねた生徒さんたちの頑張りはもちろん、ご指導に当たられた先生方、活動を支えられた保護者・関係者の方々、そうしたすべての方々の営みと思いを投影しているものでした。

金賞・文部科学大臣賞を獲得した東京都立立川学園小学部六年グループ、銀賞の東京都立大塚ろう学校小学部六年グループ、銅賞の東京都立大塚ろう学校小学部四年グループと静岡県立静岡聴覚特別支援学校中学部グループは、甲乙付けがたいレベルの高い演奏でした。そして、ここに名前を挙げた以外の学校・グループの演奏も、それぞれの特徴と持ち味をよく表した個性的なものばかりでした。

全体を通して、音の一つひとつを丁寧に奏でることを心がけていることを見て取ることができました。この点は高く評価されるものであり、そのことに伴つて、演奏水準の向上がはつきりと現れてきていることは、たいへん素晴らしいことです。ただ、そのためには、「順位をつけることは」苦渋の選択」との発言が審査委員から出てくるなど、審査上の悩みが大きくなっています。

例年申し上げているように、一人ひとりが音楽に向かい、音楽を通して自分（たち）らしさを表現すること、そのプロセスを仲間と共にすることを本コ

ンクールはもつとも大事にしてきました。練習の過程で苦しさや辛さが伴うこともあるかもしれませんのが、「音楽」の字の通り、仲間と「音を楽しむ」ことの価値は計り知れないものがあります（音楽というものの特質から「言葉に表せない」とも言えるかもしません）。音楽を続けていく上での苦労はさまざまにあります（音楽といふことで身構えたりすることなく、全国各地の学校・グループがこれまで以上に多く参加されること、一人でも多くの人が合奏の場を経験できること。こうした裾野の拡がりは、仲間と「音を楽しむ」ことの価値の理解の拡がりと深まりにつながると思います。これからも、個性が輝く演奏に出会えることを審査員一同願っています。



東京都立立川学園での表彰式

全国聾学校合奏コンクール

第三十五回全国聾学校合奏コンクール表彰式は、令和六年三月十八日（月）に、東京都立立川学園ろう学校小体育館において、山東会長が出向いて行われました。また表彰式後には在校生やご父母参加の下披露演奏会も行われました。会長から子供たちと直接話をしていただき、個々の子ども達とも記念写真を撮られました。子ども達は大きな刺激を受けたと思います。来年度も金賞を取りたいと子ども達からささやかれました。

ハマナス募金

当協会で実施しております事業は、公益財団法人JKA様より公益資金の補助をはじめ皆様方からのご寄附（ハマナス募金）により実施しています。皆様方のご理解とご支援に深く感謝いたしております。

今年度も計画事業の適正な実施に努めているところでございますが、昨今の社会情勢から事業資金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申上げます。

ハマナス募金のお振込みは、郵便振替もしくは銀行振込にてお願いいたします。

郵便振替口座 00110-9-134877

名義 聴覚障害者教育福祉協会

みずほ銀行江戸川橋支店

普通口座 1615748

名義 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
会長 山東昭子

当協会は、令和四年三月二十八日内閣府（内閣総理大臣）より税額控除に係る証明を受理しており、この度令和四年三月三十日から令和九年三月二十九日までの有効期間の延長が認められました。

令和五年十月一日から令和六年三月末日までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

（敬称略）

谷口昭子（毎月）、武田統子（石川ろう）、日本伝統文化協会、テアトルアカデミー、東京ホールディングス、西郷ソーラー発電、鈴木厚、一柳淳子、堅田明美、辻村哲夫、藤本登、山田春雄、山勝彦、山本博美、田中美郷、小林明、リオン株式会社、成田久江、佐々木節子、竹内美和子、青森県ことばと心を育む会、鄭仁豪、東京ホールディングス、西郷ソーラー発電、

アトルアカデミー、鈴木牧子、齋藤佐和

石川庄六、廣田栄子、水谷宣一、安藤裕央、

辻村哲夫、藤本登、山田春雄、山勝彦、山本博美、

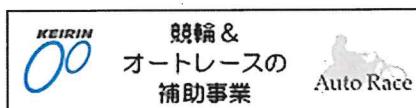
田中美郷、小林明、リオン株式会社、成田久江、

佐々木節子、竹内美和子、青森県ことばと心を育む

会、鄭仁豪、東京ホールディングス、西郷ソーラー発電、

令和五年度

公益財団法人 JKA 競輪公益資金による補助事業実施報告



トピックス

- 早期教育支援事業
- ・聴覚障害乳幼児を持つ保護者を対象にした研修会への講師派遣事業
- ・令和五年度は二十校に支援を行った。
- 実施出来なかつた学校からは来年度も開催してほしいとのご意見をいただいた。

個別指導等の記録、教員同士での検討、SSTとの連携、指導にまつわる体制面での工夫など、他校の参考になる実践である。

②

埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

研究実践報告者 教諭 手塚 勇一 他1名

◎研究テーマ

ろう重複障害者へのよりよい支援方法を探るために

研究実践の内容

去る二月十九日の聴覚障害教育振興奨励会（会長四日市 章）の審査会が全国心身障児福祉財団ビル内で開催され、受賞校の三校が決定した。

① 静岡県立沼津聴覚特別支援学校

研究実践報告者 教諭 杉山 実

◎研究テーマ

年長A児の情緒の安定と言語力の向上を導く実践研究

一 学部全体の教員仲間で見守り、笑顔で言葉でのやり取りができる幼児の姿をめざして――

研究実践の内容

○デジタル補聴援助システムの購入・無償貸与
送信機（ロジヤータッチスクリーンマイク）
受信機（ロジヤーエックス）十四セット

中学校・難聴児通園施設に在籍、在園する
全国聾学校・聴覚特別支援学校、小学校、

幼児・児童・生徒の家庭に貸与した。

定が急務と考え、次に語彙力や文法力の改善、周囲の状況理解力向上を経て、不安や自信のなさの回復に努めるという仮説を立てた。A児の好きな活動や自由度のある遊びを通して情緒の安定につなげ、分かることも困難で、活動も皆から外れていることが多かった。状況を開けるためには、まず情緒の安

③ 沖縄県立沖縄ろう学校

研究実践報告者 教諭 伊波 興穂

◎研究テーマ

聴覚障害児の主体的・対話的な学び合いの充実を図る取り組み

ー聾学校同士をオンラインでつないだ遠隔合同授業の実践を通してー

研究実践の内容

児童生徒の減少に伴い、同じコミュニケーション手段で学び合う同学年の集団活動が難しくなっている。この状況を改善するために、二年間にわたり県外聾学校と連携して、複数回の遠隔合同授業に取り組み、四つの力（①自分の考えを伝える力、②相手の考えを受け取る力、③自分の考えを深める力、④学習意欲）を身につけさせ、対等な友達関係を築く経験をさせて肯定的なアイデンティティの形成を目指した。

教科のねらいを達成するために、連携校の担任と複数回協議して学習内容を精選し、授業設定の工夫点を確認しながら実践した。遠隔合同授業を重ねるたびに児童のみでも話し合いが成立するようになり、自ら発表と質問をしたことで、新しい意見やアイデアに出会えたという児童の感想があり、コミュニケーション力や学習意欲が向上したと考えている。



東京都難聴児相談支援

センターの開設

平成五年の夏ごろに東京都保健局の方がお見えになりました、厚労省の新生児のスクリーニングから難聴児の切れ目のない事業を考えていた、東京でもこの事業を立ち上げるというお話を聞きました。これが実現できれば難聴を診断されたお母さんが相談員に悩みを

打ちあけたり、困っていることや心配していること相談できたりするようになると思いました。

とても良いことなので、ぜひ実現してくださいと申し上げてきました。そして、十一月くらいに、本

協会でやつてくれないだろうかと内々にお話を聞く機会がありました。協会では事業がたくさんあるし、とても無理だと言つておりました。そんな中、公募

をすることになったので、応募してほしいと都から言われ、子ども達には絶対必要なことだし、これまで行ってきた事業の視点からも会長、常務理事等に相談し、応募することになりました。令和五年十一月十七日本協会が受託したことの連絡があり、正式にセンターの開設準備が始まりました。三月には開設するということで、場所を福祉財団ビルの六階に決めて工事を含めて二か月という短い期間に工事も終え、必要な機器や設備を整えて、三月に開所することができます。今後東京都の聴覚障害児のための中核機能を持つ機関として、発信していきたいと

思います。

編集後記

会報「響き」八十五号をお届けします。

主に令和五年度後半の事業についてお伝えします。

後半の大きな事業の一つである「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」は、船堀タワーホールにて、昨年に続き今年度も式典・発表会共に佳子内親王殿下の出席を頂きました。全国から三十六名のお母さん方の推薦があり表彰されました。

全国聾学校合奏コンクールについては、ほぼ予定通りに審査も進み開催することができます。合奏コンクールの金賞は都立立川学園が初めて金賞を受賞しました。おめでとうございます。

二〇二四年度の協会の事業においては、JKAの補助事業がなくなりますが、「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」の名称を変更し、また新たに「東京都難聴児相談支援センター」も開設して気持ちも新たに事業を実施する予定です。全国の聾学校、関係機関、関係団体等のご理解ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。